

2025年1月23日
山川町漁業協同組合

**鹿児島県初および全国でも稀少な自然共生サイト由来
山川町漁業協同組合・山川の海のゆりかごを守る会がJブルークレジットの認証を取得
～漁業経営とステークホルダーと連携した海洋環境の保全の両立に今後も取組んでまいります～**

山川町漁業協同組合（代表理事組合長 鮫島祐蔵、以下、当漁協）および当漁協と行政、企業、有識者等によって構成される指宿市山川地区ブルーカーボンプロジェクト協議会（愛称：山川の海のゆりかごを守る会、以下、当会）による藻場造成・保全活動「指宿市“山川の海のゆりかご”ブルーカーボンプロジェクト」について、2024年度第2回Jブルークレジット認証において、0.4tのJブルークレジットとして認証（*1）されましたので、お知らせいたします。

1 経緯と背景

当漁協では、青年部を中心に継続してきた藻場保全活動について、漁業経営の基盤としての海洋環境の維持に向けた重要な要素として、組合一丸となって取り組んでおります。一方で、山川町はアマモの南限として豊かな藻場が存在してきましたが、漁業者の減少や高齢化に加えて、ウニやイスズミの食害といった海洋環境の変化が、藻場を減少させ、私たちの保全の努力を上回る状況にあります。

こうした状況に対して、多様なノウハウやソリューション、意欲を有するステークホルダーの関与を促していくことが不可欠と認識し、ブルーカーボン（*2）をキーワードにステークホルダーとの連携の枠組みである当会を2023年に設立し、取組みの裾野拡大を志向してきました。この中には、日常な保全活動に加えて、漁協・漁業者主体としては初となる環境省「自然共生サイト」の認定（*3）や「令和の里海づくり事業」への採択（*4）、全国各地、様々な媒体での活動にかかる情報発信活動も含まれます。そして、今回鹿児島県でも初となるJブルークレジット申請を行いました。

2 今回の認証概要

今回の認証は当漁協および当会による2023年9月から2024年8月までのアマモを中心とした藻場造成（0.01ha）を対象に、地域の小学校や企業たちとも連携したアマモマット作成や観察会により作り上げた鹿児島県初の成果です。また、認証の対象は、先述の自然共生サイトの認定を受けた海域を含むものであり、全国でも稀少な自然共生サイトに由来するJブルークレジットとしても意義深いものと考えております（詳細は別紙をご覧ください）。

プロジェクト名称	指宿市“山川の海のゆりかご”ブルーカーボンプロジェクト
申請者/実施者	山川町漁業協同組合、 指宿市山川地区ブルーカーボンプロジェクト協議会
クレジット認証 対象期間	2023年09月12日から2024年08月31日まで
認証対象吸収量	0.4 [t-CO ₂]



3 今後の展開

今回認証を受けたJブルークレジットは、当漁協・当会の活動にかかる對外訴求を企図した戦略的な販売や藻場造成活動に伴い発生する排出のオフセット等に活用していくことを想定しております。

海洋環境の保全は漁業者・漁協だけではなく、海洋に囲まれた本邦で暮らし、活動する人々、主体のすべての課題であります。当漁協と当会はブルーカーボンをキーワードにして、持続可能な漁業経営と地域振興に加え、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブへの貢献を果たしていくために、幅広いステークホルダーとの連携のもと、活動を継続、発展させてまいります。また、こうした当漁協・当会の姿勢に対し共感、協力いただける皆様の活動への参加をお待ちしております。

以上

*1 認証結果およびJブルークレジットの概要については [JBEHP](#) を参照してください。

*2 海藻藻場などの海洋生態系において隔離・貯留された CO2 由来の炭素を指し、陸域の森林等により吸収される CO2 由来の炭素「グリーンカーボン」と対比し、2009 年 10 月に国連環境計画の報告書においてはじめて定義されました。藻場は海洋生物の繁殖・保育場所としての機能もあり、またその造成をコンテンツとした環境教育やツアーといった地域振興の観点から、カーボンニュートラルのみならず、ネイチャーポジティブ、地域振興のコベネフィットが期待されています。

*3 自然共生サイトの認定については、[環境省 HP](#) および [当漁協 HP](#) を参照してください。

*4 令和の里海づくりへの採択については、[環境省 HP](#) を参照してください。

本件にかかるご照会先

山川町漁業協同組合 担当 東 大樹 (Tel 0993-34-0111)

※ 指宿市山川地区ブルーカーボンプロジェクト協議会（愛称：山川の海のゆりかごを守る会）は参加企業、団体、個人を随時受付しております。ご関心ある方は上記までお問い合わせください。活動や入会にかかるご案内をさせていただきます。

鹿児島県指宿市

山川の海のゆりかご

ブルーカーボンプロジェクト

[プロジェクト概要] -ABOUT-

○山川町漁業協同組合や地元企業6社で構成する「指宿市山川地区ブルーカーボンプロジェクト協議会（愛称：山川の海のゆりかごを守る会）」が取り組むプロジェクト。活動に必要な助言・協力を得るため、九州電力（株）、農林中央金庫、鹿児島県、指宿市、有識者からなるアドバイザーを設置し、効果的な活動体制を構築

○指宿市山川町は海草であるアマモ場の国内分布の南限地として知られているが、近年、環境変化や魚の食害による海の砂漠化、いわゆる「磯焼け」が進行し、アマモが消失した状態にある。この消失したアマモを再生するため、平成19年から藻場再生活動を開始、令和5年からは上記協議会を立ち上げ、活動を本格化



Yamagawa Mother Sea

再生した藻場

私たちの課題



磯焼け



ガンガゼウニ



イズズミ

[PR ポイント] -PR POINT-

令和5年に植食性魚類の食害対策を考慮した「仕切り網」を設置し、保全場所を作り、その中にアマモの活着や作業性・経済性に優れた「アマモマット」を造成、全国でも例の少ない新技術の大規模な実践により、南限アマモ場の再生に成功。

これまでの活動成果が認められ、生物多様性の保全を目指す国際目標「30by30」の達成に向けて、令和6年3月環境大臣より「自然共生サイト」に認定。漁協としては全国初の認定。サイト名「山川の海のゆりかご」として登録。

今後は、クレジットの収益を活用しながら、アマモ場のさらなる拡大を目指し、ブルーカーボンによる脱炭素社会と多様な生物生態系の維持に貢献します。

[組織図] -Relationship-

